

企画活動名	食物アレルギー児の安全と快適さの確保を目指す 食物アレルギーマーク「みらいバッチ」
フリガナ	サトウ カオリ
申請者（代表者）氏名	佐藤 香理
団体名（正式名称）	団体名 : すぎなみ食物アレルギーの会 役職・肩書など: 代表

## 1. 活動結果要約

食物アレルギー児が日常生活を送るうえで食物アレルギーがあることを周囲に周知し理解と協力を得ることが何より重要である。特に乳幼児においては保護者から離れた際、自分から伝えることは難しい。児童においては、学校内の一人一人に伝えるのは難しい。そういった課題を解決するためのツールとして食物アレルギーのマーク「みらいバッチ」を制作した。このバッチの裏面には、緊急連絡先、アレルギー、エピペンの有無が記載でき、食物アレルギーの周知、誤食防止、アナフィラキシー時の迅速な対応にとっても有効である。また、書かれたアレルギーが未来食べられるようになったときに書いたアレルギーを一つずつ消していく。食物アレルギー児が達成感をもちいつかすべてのアレルギーが寛解するその日まで「みらいバッチ」が身を守るツールとなる。バッチを普及させる為に杉並区教育委員会共催「食物アレルギーってなんだろう？」で配布 50 個、河北総合病院の小児科アレルギー外来 300 個、杉並区内の児童館 100 個、子育てプラザ 100 個設置。また当会 HP、Facebook、Twitter で告知。Twitter では告知から一週間でいいね！ 2540 件、リツイート 2121 件があった。また、タカキヘルスケアフーズさんの HP で 50 個プレゼント企画を開催。全国から欲しいと連絡が入りすでに 950 個配布した。この活動を通じ食物アレルギーの周知についての必要性を強く感じた。

## 2. 活動目的

### <活動の目的>

- ・食物アレルギーをもっていることの周知
- ・誤食防止
- ・アナフィラキシー時の迅速な対応
- ・周囲の理解と協力を得る
- ・食物アレルギー児が目標や達成感をもてるようになる

### <活動の意義>

- ・食物アレルギー児が安全で快適に日常生活、学校生活を送れる。
- ・多様性を受け入れ、互いに助け合いの心をもち皆が一緒に成長できる社会をつくるきっかけとなる。
- ・食物アレルギー児が「みらいバッチ」に書いたアレルゲンを消していく目標ができ治療に前向きになれる

## 3. 活動方法

「みらいバッチ」を普及させるため、

- ・当会 HP、Facebook、Twitter で告知。
- ・2018年12月18日(火) 杉並区教育委員会共催「食物アレルギーってなんだろう？」にて50個配布。
- ・河北総合病院の小児科アレルギー外来300個設置。
- ・杉並区内の児童館100個設置。
- ・子育てプラザ100個設置。
- ・タカキヘルスケアフーズさんのHPで50個プレゼント企画を開催。
- ・食物アレルギー体験レポーター岡夫妻のブログで告知。
- ・2019年1月22日(火)松の木児童館「食物アレルギー講座」開催。10個配布。

- ・2019年2月24日(日)「第14回すぎなみ子ども子育てメッセ」出展と「食物アレルギー講座」開催。10個販売。
- ・2019年4月2日(水)「第7回阿佐ヶ谷ママ&キッズ EXPO」出展と「食物アレルギー座談会」開催。3個販売。
- ・その他、日本全国各地の食物アレルギー団体を始め個人向けに400個発送済。

日本小児アレルギー学会で配布することができなかった。今後、配布できるよう人脈をつくっていきたいと考えている。

#### 4. 結果及び波及効果

本活動の結果としては、1000個作りすでに950個配布したことである。また、当会 Twitter では告知からわずか一週間でいいね！2540件、リツイート2121件があった。

バッチを受け取った方からは、こういうものが欲しかった、つけるのが楽しみ、よく目にとまるわかりやすい大きさでよい、このようなバッチを作っていただき感謝している、など多くの喜びのお声をいただいた。

バッチを送付したのがきっかけで食物アレルギー相談を受けることにもつながった。

『食物アレルギーは、外見からはわからない』

その人を見ただけではアレルギーの有無やアレルゲンが何かはわかりません。アレルゲンとなる食材を誤食しないように生活する上では、食物アレルギーをもつことを周囲の人たちに知ってもらうことが何より大切である。

「みらいバッチ」は表面に食物アレルギーの周知、裏面に名前、緊急連絡先、アレルゲン、エビペンの有無が記載できる。「みらいバッチ」は、表面を子どもが笑顔でスプーンとフォークを持って

いるデザインにした。そこには食物アレルギー児が達成感を感じながら、いつかすべてのアレルギー食材が寛解する日までお守りとなるようにとの思いを込めた。裏面は、誤食防止とアナフィラキシーなどのアレルギー症状発症時の迅速な対応を期待できるよう食物アレルギー児の情報を記入できるようにした。

今回の助成金活動でまず当会の認知度も含め食物アレルギーマークを知ってもらうことができ、全国各地の人から食物アレルギーマークが必要とされていることも実感した。また、地域によって食物アレルギーに対する認識の違いがよくわかった。今後さらなる普及に努めていく必要があると考える。

## 5. 今後の活動について

食物アレルギーマークの重要性、必要性を今回の活動で実感した。

今後は、全国的に普及して食物アレルギーマークの統一ができるようにすることを目標とする。これにより、就学前の子ども(幼保育園)、小学校低学年の食物アレルギー児が希望をもって未来に進んでいける波及効果が期待できる。

助成期間終了後は、就学後の食物アレルギーをもつ子ども達の周知について考えていきたい。自分自身でアレルギーについて話ができるが、やはり周知はする必要がある。

2019年4月に小学校1年生になった我が子の事例であるが、同じクラスの子どもたちに「食物アレルギーはうつる、触るな。」と言われた。その時、「みらいバッチ」を付けていたがその後、バッチをつけることを躊躇した。就学後の食物アレルギーの周知については、いじめにつながる問題も出てくるのが懸念される。そのため就学後の食物アレルギー児は、バッチをつけることを躊躇することもでてくる。そういった際に役立つと考えたのが、バッチではなく手首につけるバンド型みらいバッチである。また、子ども自身が食物アレルギーについても知識を習得するため小学生以上の全児童を対象とした「子どもアレルギー教室」を開催する(ニッポン火腿未来財団様に2019年第一期団体活動支援助成申請中)。

今後も食物アレルギー児が安全で楽しく豊かな日常生活、学校生活が送れるよう活動し、その環

境づくりのきっかけとなるよう活動していきたいと考えている。

以上